

シングルマザーの妊娠

こんな例がありました。弓子さん（仮名）21歳は4歳と2歳の娘がいて母子手当を受けながら生活をしていました。彼女は自分が家庭の暖かさを知らないで育ったので家族がほしかった。早く家族のもとから離れ、安心したのはわずかの日々で離婚し、助けてくれるオーナーの店で働き、その後知り合った男の子供を中絶しなければなりませんでしたが。その苦しみから立ち直り始めた頃また、赤ちゃんを授かり今度はどうしても生みたいと思ったのですが男に話すと、婚約中の人がいるからと反対され連絡も途絶えてしまいました。検診に行った病院でも中絶を薦められショックで病院も変えました。しかし事情をよく理解し、円ブリオのこともご存じの産婦人科に巡り合い、親切なオーナーさんの理解もあって、その地のいのちの会の親身になってのご尽力で、この若いお母さんにもやっと安心と希望の火がとりました。こんな現実を見て批判する人もいるでしょう。しかし私たちの運動は命は救うことなのです。しっかりした母親に育てていくことなのです。きっと生まれてくる子は使命のある子です。心からお祝いし支えていきましょう。

